

歯科診察室にあふれる オノマトペ

近ごろアゴが痛む。職場近くに専門の歯科医院を見つけ通い始めた。診察を受けると顎関節症と診断。相当のストレスを抱え長年強く歯を食いしばって下アゴの位置がおかしくなっているのだとか。

治療が始まり、通ううちにあることに気づいた。治療中の歯科医師のことばがきわめて特徴的なのだ。

「ガジガジ^か噛んでください」「奥歯はジクジク痛みますか？ズキズキしますか？」「右にグーッと歯ぎしりしてください」「ちょっとガリガリします」「ズシンと痛みが来たら教えてください」「麻酔するので、チクッとします」「削るのでキーンとします」「まだギシギシしてますか？」「歯をグリグリしてください」「奥歯をコンコンと叩きますよ」「知覚過敏でキーンとしみますか？」

なんとも診察室の中は擬音語・擬態語だらけだ。こういった擬態語・擬音語を総称して「オノマトペ」と呼ぶ。なぜ歯科医師はオノマトペを頻繁に使うのか？知り合いの歯科医数名に話を聞いてみた。

「鈍痛^{どんつう}と鋭痛^{えいつう}と言っても、伝わらないよね」「歯科の専門用語は難しいから患者さ

んには直感的に理解してもらうためにオノマトペが必要だよ」という意見が大半であった。まず患者さんは常に口を開けているために答えづらい。およそ考えずに指示を理解できることが治療の中で重要なのだとか。「咬合^{こうごう}してください」など専門用語を使っても、患者さんは何のことやらさっぱりわからないのだと。そしてこれらの「オノマトペ」は歯学部で習うのではなく日々の治療の経験の中で身につけるのだという。

「歯をカチカチしてね」「お口アーンして」「イーしてください」など子どもの治療のとき、特にオノマトペが多くなるのだとか。また「歯の治療はこわい」というイメージを弱めるためにオノマトペを使うという歯科医もいた。仕事人の知恵である。

ところで私の地元・北海道では歯の調子が悪いときに「歯がイズイ」と言う。これも「オノマトペ」の一種かと思ったが、よく調べると『広辞苑』に載っていた。「いずい」は【「えずい」(形容詞)快適でない】の方言、東北・北海道でよく使われる、と説明されている。痛みや不調を表すことばは奥深い。なんともズブズブの沼なのかもしれない。

濱田考弘(はまだ たかひろ)